



日本の悠久の歴史をひもとけば、そこにはわが国を支えてきた「なでしこ」たちの存在があります。福岡の人気歴史家・白駒妃登美さんに、そんななでしこたちの知られざる歴史物語を紹介していただきます。

博多の歴女 しらこまひとみ 白駒妃登美

一番電車に希望を乗せて

原爆の広島に生きた女生徒たち

名もなき少女たちの奇跡

今年も八月が廻ってきました。七十二年前の八月、人類史上初めて原子爆弾が広島に、続いて長崎に投下されました。唯一の被爆国として、誰も経験したことのない復興へと立ち上がった日本。今回ご紹介したいのは、広島復興の希望となり象徴ともなった出来事です。とはいえ、歴史の教科書に載るような偉人が主人公ではありません。

昭和十八年四月、広島に、とある学校が誕生しました。全寮制で働きながら勉強ができ、お給料までもらえる——。七十二名の新入生を迎えて開校したのは、広島電鉄家政女学校。多数の男性職員が戦地に赴いた広島電鉄は、人手不足を解消するために、女学生を路面電車の乗務員として育成しよう

うと考えたのです。

普通学科に加えて路面電車や路線バスの運行に関する授業も行われ、在学中から車掌や運転士として乗務する実践教育が施されました。少女たちは緊張のあまり停留所を飛ばしたり、年ごろの男子にからかわれたり、たくさんの失敗も経験しながらも、仲間と励まし合い、一人前の乗務員に成長していきました。そして彼女たちを乗せた電車は、あの日を迎えます。

電車、動くんじゃあ

昭和二十年八月六日午前八時十五分、原爆投下——。路面電車の約九割にあたる百八両が被爆。電柱が倒れ、変電所がつぶれ、レールが曲がるなど、広島電鉄は壊滅的な

【広島電鉄家政女学校】

広島電鉄が戦時下の昭和18年(1943)4月に開校した全寮制の女子実業学校。国民学校高等科を卒業した女子を対象に、乗務員育成のための教育が施された。昭和20年(1945)9月に廃校となる。

【イメージイラスト】
アオジマイコ